

独立混成

第十五联隊本部

陣中日誌

自昭和三年三月五日
至三月廿日

防衛研究所戦史室

返還史料

2720
-25916

沖
151

昭和33年4月米政府返還旧日本軍記録文書等史料経歴票
防衛庁防衛研修所戦史室

表 題	独立混成第15联隊本部陣中日誌
整理番号	通 2720 ^c 25916
作成の部隊 庁・個人名等	独立混成第15联隊本部
作成年月日	明治 大正 昭和 年 月 日作成 自 年 月 日 至 年 月 日 の間作成
史 料 の 主 内 容	
備 考 (本史料に 関する参考事項 を記す)	
史 料 の 入 手 経 路	本史料は、大東亜戦争中、米軍が直接戦場で鹵獲し、または日本本土へ進駐後、陸海軍諸機関から押収した記録文書の一つであって、長くワシントン郊外のフランコニア等の記録保管されていた。米國務省に対する日本政府の返還要求に応じ、昭和33年3月、日本側に引渡され、同年4月横浜着、同月10日指定保管責任庁たる防衛研修所戦史室の手に帰したものである。
責 任 者 職 氏 名	防衛庁防衛研修所戦史室長 防衛庁事務官 西 浦 道

1/10
1/10

第...卷

中日誌資料

Unit #
1001
C.I. 501
E-97501
OKINAWA 23 June

20008

三月五日

田云
機圖

討敵計畫

一、九リリリ部隊別管、新機圖の精進を旨とする

二、新機圖の精進を旨とする、石田中尉の指揮官に石田中尉の指揮官に

三、一甲の部隊長の指揮官に石田中尉の指揮官に

四、係数交換一稱隊の中隊間重構が工率完了

五、交換所設置は作世主統行

六、一具覚初年其細察身体検査を要す

系出 初 初 細 部 二 関

年 庚 辰

三月六日

三三

一、第一回防衛演習の美施

二、一〇〇〇部隊の演習
三、一〇〇〇部隊の演習
四、一〇〇〇部隊の演習
五、一〇〇〇部隊の演習
六、一〇〇〇部隊の演習
七、一〇〇〇部隊の演習
八、一〇〇〇部隊の演習
九、一〇〇〇部隊の演習
十、一〇〇〇部隊の演習

一四〇〇部隊の演習

五、交換所用三角舎長は交換機内より交換機ヲ移動
六、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
七、代用指揮器製造ノ開始ス
八、官廳下官製機ノ開始ス
九、官廳若手若壇備置ノ開始ス
十、官廳若手若壇備置ノ開始ス

一、周知大尉連絡ノ事務
二、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
三、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
四、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
五、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
六、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
七、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
八、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
九、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
十、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス

四、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
五、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
六、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
七、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
八、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
九、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス
十、係數交換一係數所附戰鬥指揮所間有餘掛機ヨリ美施ス

林資天
林資天
林資天
林資天
林資天
林資天
林資天
林資天
林資天
林資天

三月八日 星期三

- 一、〇五〇〇部隊長國史大尉常同第長、第三大隊長及旅長第大、隊長等ニ於テ其 實施セラルルニ付 演習見学ノ為 桑名町方面ニ出張
- 二、一三五〇部隊長國史大尉常同 第三大隊長及第長等ニ於テ 初年兵教育狀況視察ノ為 前所 桑名町ニ出張
- 三、桑名支隊一、第二大隊長指揮所向、會場或ニ準備了
- 四、右時ニ中隊ニ釋群交付
- 五、右時一

三月九日 晴

- 一、七〇〇名大隊主地將校及名中隊長旅團ニ於テ其他各隊將校見学ノ為 桑名町ニ出張
- 二、〇九〇〇部隊長石井少佐常同 第三大隊 初年兵教育狀況視察
- 三、支隊所用操及無線通信所用操初年兵等開始
- 四、桑名町ニ釋群到

一、桑名町ニ出張
二、九七陸黄葉一四五受飲

三、二九六隊ノA型ハラケラスニ患病者 桑名町ニ出張
七、桑名町ニ出張

一、九...
 二、...
 三、...
 四、球八八一三...

火砲...
 高紹...
 女子...



愉

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...

三月十二日

一、〇九三〇花田橋下太尉 附記
同部 附記
同部 附記
同部 附記

二、〇三〇〇同長大尉連絡、考功手言七〇〇部除二五張
三、〇四〇〇同長大尉前川子組、考功手言七〇〇部除二五張
四、〇五〇〇同長大尉前川子組、考功手言七〇〇部除二五張

精丸
五、木製丸太砲作製

六、野隊銃斗格持所ヨリ各六門ニ至ル幹線、補強工作ヲ実施

七、隊正隊被服受取
松(丸)ヨリ

三月十九日

一、〇三〇〇部隊長同長大尉、考功手言七〇〇部除二五張
二、〇四〇〇部隊長同長大尉、考功手言七〇〇部除二五張
三、〇五〇〇部隊長同長大尉、考功手言七〇〇部除二五張

三、敵村 B29 B29 同斬ナリ本為ニ至
二、松刀至田橋

3月4日

13-18

10

二月二十日 晴

一、別紙計畫書ニ基キ。○○○仲業員由側ニ於テ銃火器ノ試檢

銃火器ノ試檢計畫書ニ基キ

一、○○○部ニ於テ。第一ノ隊ニ於テ。中隊長ノ行ツテ火力

ノ研究ノ研究先決的ニ為ス

三月二十日 晴

一、別紙計畫書ニ基キ。○○○仲業員由側ニ於テ銃火器ノ試檢

銃火器ノ試檢

二、○○○ノ第三大隊ニ於テ。研究先決的ニ為ス

研究先決的ニ為ス

三月二十三日

善

二
一、一〇〇〇〇部... 於各地方... 事務... 件... 用之...

一、... 於... 漸減... 目的...
二、... 習... 體... 目的...

三月二十三日

善

一、七、七、七... 報...
二、散...

三月二十四日

晴

二、三、四、知念半島南東第一二敵艦七隻砲去

敵の砲 艦ヲ以テ空砲也

三、敵艦の撤退ニ際シテ中隊長以下於牙橋揮所洞窟ニ移行

四、敵艦及出洋艦艇砲撃ヲ以テテ津川奥武

島ニ急ぎ 敵ヲ待た

五、三、四、軍高野山ニ退き津川奥

六、三、四、軍高野山ニ退き津川奥

七、三、四、軍高野山ニ退き津川奥

三月二十五日 晴

一、三、四、軍高野山ニ退き津川奥

二、依然艦砲射撃ハ地ニ降陸砲隊迄ニ轉送ナリ

三月三十日 晴

一、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近。

二、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近 一 下 日 至 二 下 日 至 三 下 日 至 四 下 日 至

三、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近 一 下 日 至 二 下 日 至 三 下 日 至 四 下 日 至

五、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近 一 下 日 至 二 下 日 至 三 下 日 至 四 下 日 至

一、上陸 在 園 井 井 近 夕 船 七 八 十 一 點 鐘 渡 河 時 速 一 點 鐘

二、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近 一 下 日 至 二 下 日 至 三 下 日 至 四 下 日 至

三、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近 一 下 日 至 二 下 日 至 三 下 日 至 四 下 日 至

四、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近 一 下 日 至 二 下 日 至 三 下 日 至 四 下 日 至

五、遊覽 杜鰲山 和 帯用山 鴨斗 持 持 洞 岩 附 近 一 下 日 至 二 下 日 至 三 下 日 至 四 下 日 至

一
歌

三
月
廿
八
日

三十一日 著

一般の事業、自費の多量に於ては、
^一 別 十の巨額を一千万乃至一億に達するに至るハ、
 故多量に同所より、
 津金也

三月廿二日

十四

一、海防の爲に、水軍を設け、舟楫の修繕を怠らざるべし。

二、陸軍

三、一、兵士の訓練を怠らざるべし。二、兵器の修繕を怠らざるべし。

三、一、兵士の訓練を怠らざるべし。二、兵器の修繕を怠らざるべし。

三、一、兵士の訓練を怠らざるべし。二、兵器の修繕を怠らざるべし。

三、一、兵士の訓練を怠らざるべし。二、兵器の修繕を怠らざるべし。

三、一、兵士の訓練を怠らざるべし。二、兵器の修繕を怠らざるべし。

三月三十日

十原

一、昨日、船艇、往、付、出、依、然、六、三、三、月、列、川

二、昨日、付、出

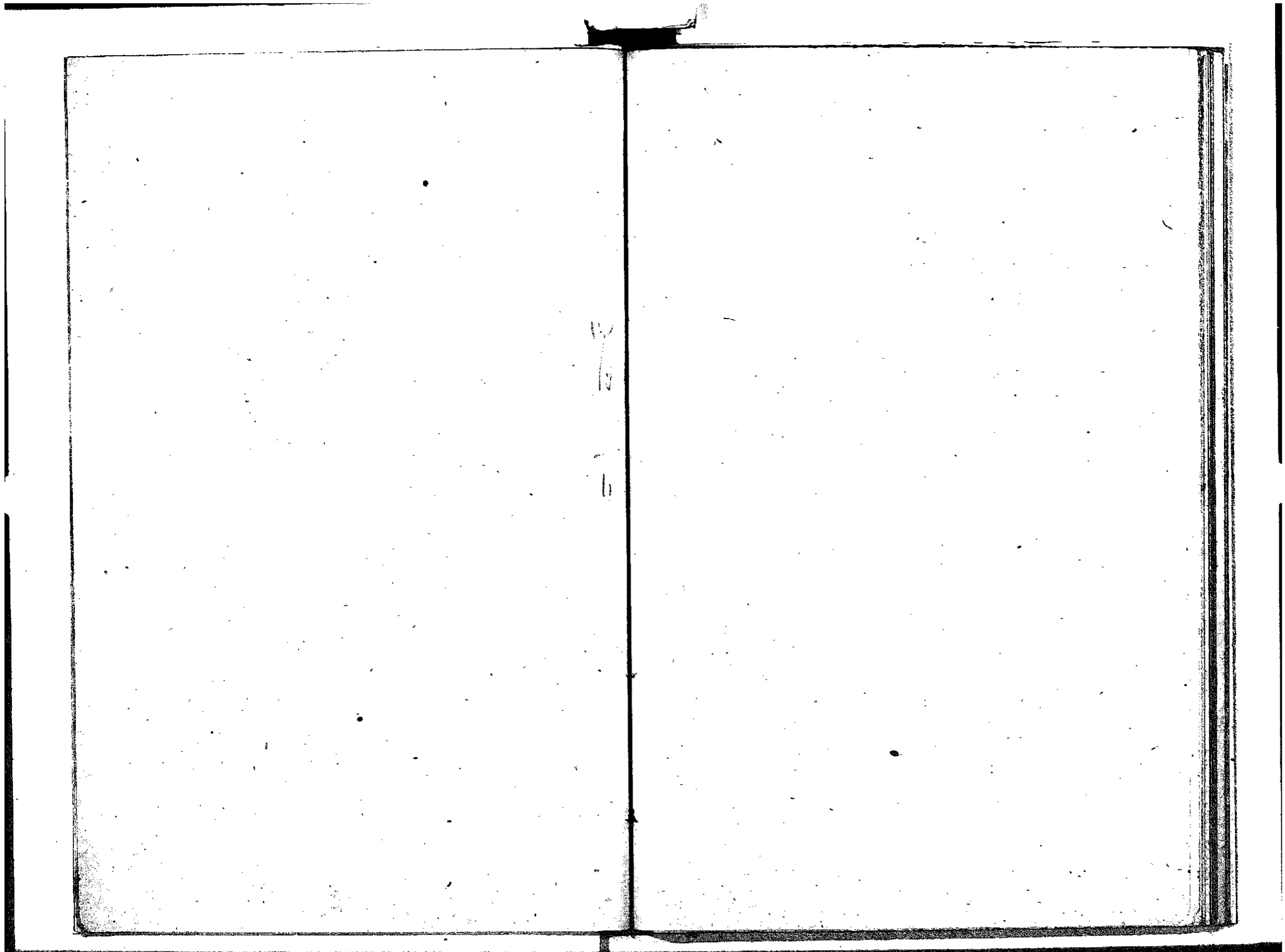
三、昨日、舟、船、船、之、景、臨、引、場、諸、船、取、事、原

四、昨日、舟、船、船、之、景、臨、引、場、諸、船、取、事、原

三十一

三十一

一、二七〇
外書開箱
八十八
〇〇〇



一三。松月本子存

四
月
二
日
午

四
月
二
日

早

四月 二十日 晴

- 一、雨天ノ為ニ林路ノ歩少シ
- 二、一九〇。古ノ中ノ街ノ後ノ路ノ為ニ歩可ク少シ
- 三、廿日

二十日 晴

- 一、四月 廿一日 晴
- 二、四月 廿二日 晴

24 25 26 27 28 29 30 31

I
1
2
3
100
II
4
5
6

200

III
7
8
9

300

IA
TA
P
R
J

4 14

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14